

2025（令和7）年6月4日

**2025（令和7）年度 私立短期大学図書館協議会
全国理事会 議事録**

日 時：2025年5月15日（木）14:00～17:00

場 所：林野会館 603 会議室

出席者：15名（敬称略）

【本部】＜近畿大学＞毛利和弘 ＜千葉経済大学短期大学部＞齊藤誠一 ＜前北海道武蔵女子大学北海道武蔵女子短期大学＞木村修一 ＜前大手前大学＞前川和子＜前カリタス女子短期大学図書館＞石田孝夫 ＜前聖徳大学川並弘昭記念図書館＞林浩次＜新潟清陵大学新潟清陵大学短期大学部図書館＞高野聡 ＜文化学園大学図書館＞今井智子 以上8名

【地区】

[北海道]＜北海道武蔵女子大学北海道武蔵女子短期大学附属図書館＞伊藤顕史

[東北]＜柴田学園大学短期大学部附属図書館＞相場春香

[関東甲信越]＜千葉経済大学総合図書館＞渡邊直子（代理）

[東海・北陸]＜富山短期大学付属図書館＞関好博、中村萌華

[近畿]＜大阪成蹊大学・短期大学図書館＞壺井裕子（代理）

[九州]＜別府溝部学園短期大学図書館＞真部健一 以上7名

司 会：林浩次

配付資料：①議事次第、役員名簿、出席者名簿

②各地区報告書、通信等

③全国総会資料

1. 会長あいさつ

理事会の開催にあたって、齊藤会長より次のように挨拶された。

近年、短期大学の運営が厳しい状況にあり、朝日新聞にも関連記事が掲載された。文部科学省の評価基準が厳格化する中、図書館の運営も厳しさを増している。私立短期大学図書館協議会では加盟館の減少や役員問題を抱えており、昨年度改革プロジェクトを立ち上げたが、説明不足ということもあり、今年度も継続する予定である。さらに、全国研修会の開催方式を従来の集合型ではない形に変更し、そちらも提案させていただき審議をお願いしたいと考えている。

2. 報告とお願い

齊藤会長より、①研究誌「短期大学図書館研究」について、各地区の研修会での講演、事例報告、またはアンケート調査を行った際には、ぜひ論稿化してほしいとの要望があった。また、②本協議会では加盟館の減少に伴い、広告収入にあたる賛助会員（団体）が少なくなって厳しい状況にある。広告掲載の協力をお願いし、賛助会員（団体）としての加入を促してほしいと要望された。

3. 自己紹介

出席者 15 名の自己紹介

4. 各地区事業報告

北海道地区から順に昨年度の地区事業報告及び決算報告、本年度の会勢と事業計画案及び予算案が報告された。

5. 総会について

事業報告、決算・監査報告、新役員案、事業計画、予算案の確認を行った。

(1) 総会議長について

総会の議長は理事会メンバーから選出するのが恒例になっていることから、齊藤会長より本部事務局案として常任理事の前川和子氏の推薦があった。協議の結果、議長は前川和子氏にお願いすることになった。

(2) 事業報告、決算、監査報告

齊藤会長より 2024 年度の事業報告の後、会計担当の石田氏から決算報告があった。監査報告は監査人の今井氏から報告があった。

・私短図協の運営に対する改革提案プロジェクトについて（事業報告）

昨年度の総会において、私立短期大学図書館協議会の運営が厳しい状況であることが報告されたため、改革の必要性が認識され、改革プロジェクトを立ち上げた。改革プロジェクトは、昨年 7 月から会議を開始し、今年 1 月までに報告書を作成した。その後、理事や加盟館に対し、説明を行ったが、浸透している状況とは言えなかった。

当初は、2024 年度に臨時総会を開き、2025 年度から新しい改革案を実施する計画だったが、調整が難しく、軌道修正し報告書の作成と説明に重点を置く方針に変更した。

2025 年度は、より丁寧な説明を行い、コンセンサスを得ながら慎重に改革案を進めていくことが報告された。

(3) 新役員の選出について

事務局の林氏より 2025 年度私立短期大学図書館協議会役員名簿（案）が示さ

れ、東海・北陸地区、近畿地区、九州地区の理事館が交代し、北海道地区、東北地区、関東甲信越地区の役員が交代したことの報告があった。その他役員については、2025年度私立短期大学図書館協議会役員名簿案のとおり、了承された。

(4) 事業計画、予算

齊藤会長より2025年度事業計画案の説明の後、会計担当の石田氏から予算案について説明があった。

(5) 会費規程の改正案の提案

会計担当の石田氏より、本部会計の厳しい状況を受け、2025年度の予算案において、各地区協議会への助成金を従来の10万円から5万円へ減額する会費規程を改正する提案がなされた。これは加盟館の減少に伴い、本部の収入（会費総額から「交付金・補助金」を差し引いた額）が減少し、東北地区、関東甲信越地区、九州地区以外の会計が相殺または会費収入を超える支給となっているためである。

したがって、2025年度の会計処理に関しては、すでに総会を終えている地区もあるため、地区内での決算報告をもって対応いただくようお願いすることで了承された。

(6) 私短図協改革提案プロジェクト報告案の説明

齊藤会長より、私短図協改革提案プロジェクトの報告案について、詳細に説明された。概要説明は以下のとおりである。

2025年度の定期総会では、昨年度に計画していた改革提案を実施する予定が説明に時間を要したため、2025年度の総会で改革提案の概要を説明し、今後も加盟館への丁寧な説明会を継続しながら今年度中に最終案をまとめ、臨時総会を含めた合意の機会を設けることを提案し、2026年度から新体制で対応する方針が示された。

(7) 今後の研究誌への対応について（提案）

齊藤会長より研究誌「短期大学図書館研究」について以下のとおり提案された。

「私立短期大学図書館の運営に対する改革提案プロジェクト検討報告書（案）」において、研究誌の今後について担当の木村理事と毛利名誉会長とも協議した結果、「短期大学図書館研究」は2025年度発行の第45号をもって最終号とする。

これは、財政的な負担が大きいことに加え、関係する人材の確保が困難であることが主な理由である。今後は、その代替として「会報」を充実させ、機関誌としての役割を担うものとする。

(8) その他

- ・全国研修会（2025年度実施）について

齊藤会長より全国研修会について以下のとおり提案された。

今年度は全国研修会の開催年にあたるものの、私立短期大学図書館協議会

の運営が過渡期にあるため、集合研修の実施には慎重な判断が求められた。

しかし、加盟館職員の資質向上は継続的な取り組みが必要であることから、オンデマンド動画を活用した研修プログラム「私立短期大学図書館ライブラリアン講座」の導入を検討し、その実施について、具体的な内容が詳しく説明された。

また、木村理事より、この「ライブラリアン講座」の講義の一つとして「パスファインダー」の内容を入れてもらいたい旨の提案があった。

北海道の図書館では「パスファインダークラブ」を立ち上げて、パスファインダーの情報更新・維持の効率化を図る取り組みを進めている。Google ClassroomやFacebookを活用し、各トピックのモデルを共有・配信することで、図書館利用者が従来の紙媒体とパソコンに加え、スマホ版のパスファインダーを使って容易にアクセスできる環境を整えつつある。学生が図書館でスマホを使いながら書架で本を探せる仕組みを構築中である。さらに、このモデルを北海道内だけでなく全国の図書館へ展開し、広範な参加をお願いし、より発展的な情報共有の方法を広げていきたいと考えている。

以上